

第六次猪名川町総合計画策定に向けたまちづくりワークショップ

みんなでワイワイ
話し合おう！

いながわの未来

第4回 まちづくりワークショップ ～「10年後のまちの将来像（いながわの未来）を 形にしてみよう！」その2～

第4回まちづくりワークショップでは、「10年後のまちの将来像（いながわの未来）」を「言葉」として整理し、参加者みんなで共有しました。

まずは、第3回で話し合った結果などを踏まえて、「まちの将来像」をキャッチフレーズやそれを補うストーリー・物語などの「言葉」にしました。

そして、話し合った内容・経過などとともに、「まちの将来像」をプレゼンテーション！班ごとに違った視点、共通した視点もあり、その後の質疑応答も盛り上がりました。



概要 日時：2018年12月11日（火）19:00～21:00
会場：猪名川町文化体育館 会議室

プログラム

前回の振り返り＋今日の目的の説明

グループワーク

1. 「いながわの未来」を言葉にしてみよう
2. 「いながわの未来」を共有しよう
(各班で話し合った内容をプレゼン)

1. 「いながわの未来」を言葉にしてみよう

第4回から新たに参加された方もいるなか、まずは、第3回まで「まちの将来像」をどのように形にしてきたかを、メンバー間で共有し、レゴ®ブロックなどで表現してきた内容を言葉にする作業がスタート！

いきなり「言葉」にするのはなかなか難しいため、以下のステップで、「まちの将来像」の整理を進めて行きました。

- ①：まちの「問題」を名詞1つで表現
- ②：まちの「問題の状況」を形容詞2つで表現
- ③：まちの「問題に対する自分たちの感覚」を形容詞3つで表現
- ④：まちの「問題に対してどんな行動ができるか」を名詞を4つで表現
- ⑤：①～④を踏まえて「どんな新しい地域が現れるか」を1つの修飾語で表現

このステップを踏むことで、これまでのワークショップを通じて、レゴ®ブロックで表現し、共有、共感してきた「まちの将来像」が、「言葉」となって紡ぎだされました。



2. 「いながわの未来」を共有しよう

後半は、各班で、「まちの将来像」を「言葉」として整理した結果を全体で共有するために、プレゼン大会がスタート。

代表者がプレゼンを行う班や、班のメンバー総出でプレゼンを行う班など、様々な形で各班の「まちの将来像」に参加者がうなずいたり、共感したり、驚いたり。

限られた時間のなかで、質疑応答も含めて、熱気と笑いがあふれるプレゼン大会になりました。

※以下に、発表順で各班の「まちの将来像」を整理します。



E班

住んでみたいと思える地域



➤ 住んでみたいと言うと「人口増加」「働く場所の提供」「交通の便を良くする」といったことがあがってくるが、これは難しい・・・というか無理かも。

➤ それでは、どうするかということで、「自然環境」「子育て環境」「住まい」「農業」といった小さな良い所を積み上げていって、「住んでみたいと思える地域」にしていく。

➤ 近隣でうまくやっている所から学ぶ（川西の黒川地区、宝塚の西谷地区）ことも必要。

➤ いろいろなつながりをもって、取り組みを進めていく必要がある。それぞれ得意な分野で、できることから取り組む。

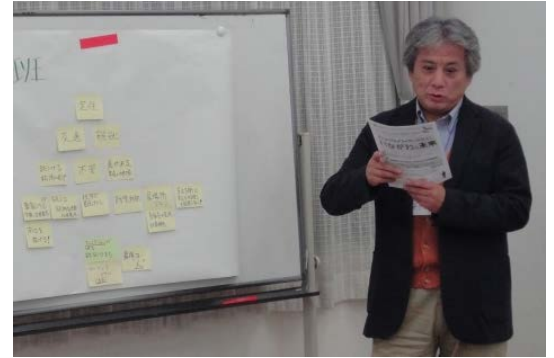


A班

コミュニケーションによる安全安心なまち。最後は“人”。 ～猪名川町はいろんなものが混在している「マーケット・タウン」～

- ①問題：「定住」
- ②問題の状況：「交通」「安全安心」
- ③問題に対する自分たちの感覚：
「不安」「まだいける」「まだ間に合う」
「年齢・地域によってもあまりにも受ける印象が違う」
- ④問題に対してどんな行動ができるか：
「教育レベルのアップ（学校教育＆生涯教育）」「文化的な活動の活発化」「みんなで見守る（支える側と支えられる側を固定しない）」「防災、防犯」「居場所づくり・多年齢の交流」

定住には
この2つの問題
の解決が必要



D班

地域の中で横のつながりを強化し、観光での交流により、地域の底力を 上げ、循環させる。



- ①問題：北部エリアの人口減少。
子育て世代が入ってきてくれない。
- ②問題の状況：
「閉鎖的な面があり、他所からの人が入りにくい。」
「世話役的な人材をひっぱりあげるシステムでない。」
- ③問題に対する自分たちの感覚：
「ヤバい」「焦り」「切羽詰まっている」
- ④問題に対してどんな行動ができるか：
「活性化しようとしている人が話しあい、方法を見つけていく」「新しいことにできるだけ多くの人が取り組む」「できないことを周囲の人が手伝いができるような状況をつくる」「観光」

B班

少子高齢者が住みやすい町。 高齢者が働きやすい町。高齢者が元気になる。

- ①問題：「少子高齢化」
- ②問題の状況：
「空き家が回転していない（供給があっても需要がない）」
「インフラが充実していない（交通）」
- ③問題に対する自分たちの感覚：
「個人的な問題として捉えている＋あきらめ＋他人事。」「猪名川町はとても良くて大好きなのに、言っていることは悲観的。」「不便」
- ④問題に対してどんな行動ができるか：
「畑つきの分譲住宅（特に北部）」
「ネットを利用したアピール」
「農業の新規参入」
「ふれあいバスの改善」

自然が豊か！
子育てが
しやすい！

他自治体では
新規参入しやすい
仕組みがある



次回以降について

次回以降のまちづくりワークショップについて、開催日程が以下の様に決まりました。

第5回 1/22

「まちの将来像」を実現するために、みんなでできること・やってみたいことを話し合おう！

第4回で共有した「まちの将来像」の実現に向けて、参加者が「やってみたいこと」「できること」などを考え、話し合い、具体的な「テーマ」を設定していきます。

第6回 2/5

テーマに関連する事例・情報を共有しよう！

第5回で設定したテーマに関連する他自治体等での先進事例、関連する制度等など、今後、話し合っていくために必要な情報等を共有します。

第7回 2/19

それぞれのテーマを深掘りしてみよう！

テーマに関係する猪名川町の「強み」「弱み」を整理し、テーマにおける10年後の猪名川町の目標を整理します。

第8回 3/5

総合計画基本構想をみてみよう！

今まで話し合ってきた内容が総合計画基本構想にどのように反映されているかを確認します。

後期へ

第5回 「まちの将来像」を実現するために、みんなでできること・やってみたいことを話し合おう！

日時：1月22日（火）19:00～21:00 会場：猪名川町文化体育館 会議室

第6回 テーマに関連する事例・情報を共有しよう！

日時：2月5日（火）19:00～21:00 会場：猪名川町文化体育館 会議室

参加者の感想

具体的に検討・協議できた。抽象的な言葉のイメージだったレゴが、変わってきた。／自分が思っていた以外の発想や問題点が発表されていて、非常に参考になった。／皆が真剣に考えている事がわかり、いろんな気づきがあった。／前回までの議論が積み上がっている上で今回だったのが議論が進んだ理由かと思えます。／自分や他の人が出した問題に対して「これなら出来る」など前向きな具体的な話が出来たことがよかった。／様々な人の考えが知れてよかった。少し説明の時間を短くしてくれれば…／全体として時間が足りない。／少子高齢化や北部と南部のアンバランスがどのグループの共通の問題点であると感じた。／地域の人達で町が作っていきえるように思えてうれしかったです。 など

第5回からでも参加頂けます。お問い合わせ・お申込みは下記まで！

猪名川町役場企画総務部企画財政課

電話：072-766-8711 / F A X：072-766-8902 / メール：kikaku@town.inagawa.lg.jp

第4回まちづくりワークショップ まとめ

1. 各班の「いながわの未来」

第3回の結果やプレゼン大会での発表等を踏まえて、各班で話しあった「いながわの未来」について整理します。

A班の「いながわの未来」

①問題	●<u>定住</u> ⇒自分の子どもたちが猪名川町で育っても結局は大阪市など町外へ出ていってしまう。この現状をどうやって解決すればよいのか！
②問題の状況	●<u>交通</u> ●<u>安全・安心</u> ⇒この2つの問題をしっかりと考えないと、子どもたちの定住は難しい。
③問題に対する自分たちの感覚	●<u>差がある</u> ⇒年齢や地域によって問題に対する意識・実態などが違う。 ●<u>不安</u> ⇒交通が不便、安全安心が守りにくいのは不安につながる。 ●<u>まだいける！まだ間に合う！</u> ⇒実際に住んでいる自分たちが振りかえってみると、他地域と比べて猪名川はまだいける（例えば、尼崎よりは安心）。何か対処方はあるはず！
④問題に対してどんな行動ができるか	●<u>教育レベルの向上</u> ⇒学校教育だけではなく、生涯教育も。外から文化的なモノを呼び込めるような。 ●<u>交流人口を増加させるための文化的な活動の活発化</u> ●<u>みんなで見守る</u> ⇒高齢者が朝、子どもの見守りをしているが、子ども達が認知症の人等の見守りをするように、支える側と支えられる側を固定しない取り組み。 ●<u>防災、防犯。</u> ●<u>居場所づくり。多年齢の交流。</u> ⇒子どもや高齢者だけでなく、若者、特に高校生の居場所をどうやってつくっていくか。
⑤どんな新しい地域が現れるか	コミュニケーションがとれる安全・安心なまち。最後は“人” ～猪名川町はいろんなもの（人・地域・生活・環境など）が混在している 「マーケット・タウン」～

B班の「いながわの未来」

①問題	● <u>少子高齢化</u>
②問題の状況	● <u>空き家が回転していない</u> ⇒供給があっても需要がない。管轄を県から町に移行できたら… ● <u>インフラ（特に交通）が充実していない</u>
③問題に対する自分たちの感覚	● <u>個人的な問題</u> として捉えている。 <u>あきらめ</u> 。 <u>他人事</u> 。 ●猪名川町のことは大好きなのに <u>悲観的</u> なことばかり言う。 ⇒猪名川町は自然も豊かで、ゴルフ場もいっぱいあるし、子どもが伸び伸び育つなどといった良いところいっぱいあり、だからこそ移り住んだ人がたくさんいる。しかし、空き家が多いとか子どもが巣立って、高齢者のみの世帯がたくさんあるなどの現状から悲観的になってしまう。 ● <u>不便さ</u>
④問題に対してどんな行動ができるか	● <u>畑つきの分譲住宅（特に北部）</u> ⇒大きい土地を小さく分割したら若い人が入ってきた事例がある。 ● <u>ネットを利用したアピール</u> ⇒猪名川町に住むと自然が豊かで子育ても良いというアピール。 ● <u>農業の新規参入の促進</u> ⇒制度上 3,000 m ² ないと農家として認められないが、三田市はその基準を下げている。 ● <u>ふれあいバスの改善</u>
⑤どんな新しい地域が現れるか	 少子高齢者が住みやすい、高齢者が働きやすい町。高齢者が元気になる。

D班の「いながわの未来」

①問題	●<u>北部エリアの人口減少</u> ●<u>子育て世代が入ってきてくれない</u>
②問題の状況	●<u>他所から来た人が入りにくい</u> ⇒昔ながらの考え方で、閉鎖的な面がある。 ●<u>人望のある世話役的な人材をひっぱりあげるシステムでない</u>
③問題に対する自分たちの感覚	●<u>ヤバイ</u> ●<u>焦り</u> ●<u>切羽詰っている</u>
④問題に対してどんな行動ができるか	●<u>活性化しようという人が話し合い、方法を見つけていく</u> ⇒世話役的な人がいれば、他所から入った人も面倒を見てもらいながら地域の中に溶け込めるのではないかな。 ⇒各地域で世話役的な人をみつけて、活性化しようとしている人が話しあい、方法を見つけていく。 ●<u>新しいことをやってみようという活動をできるだけ多くの人が取り組む</u> ●<u>できないことを周囲の人が手伝えるような状況をつくる</u> ⇒各地域で高齢化が進む中で、これまでできていたことが、できなくなってしまうが、閉塞的な地域の中で「できない」ということを出しにくい。できなくなったことを出していって、周囲の人が手伝えることができるような状況・仕組みなどをつくる必要がある。 ●<u>観光</u>



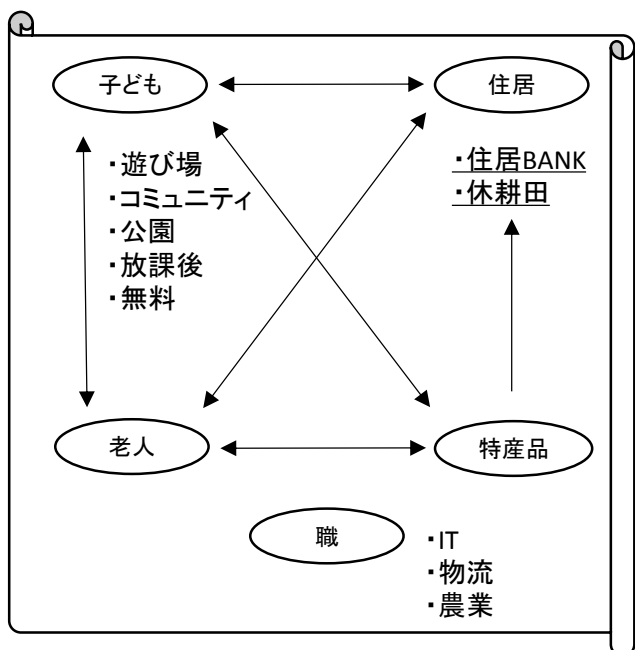
⑤どんな新しい地域が現れるか	地域の中で横のつながりを強化し、観光での交流により、地域の底力を上げ、循環させる。
----------------	---

E 班の「いながわの未来」

①問題	●住んでみたいと言うと「人口増加」「働く場所の提供」「交通の便を良くする」といったことがあがってくるが、これは難しい……というか無理かも。 ●それでは、どうするかということで、以下に示す小さな良い所を積み上げていって、「住んでみたいと思える地域」にしていく。
②問題の状況	⇒自然環境：自然を活かす。川のキレイさ、大野山など、猪名川の自然を求めて、池田や川西など近隣地域からも人が来ており、魅力ある。 ⇒子育て環境：よい点として医療費が無料、中学校まで給食がある。他の地域になかなかないので、アピールしていく。 ⇒住まい：空き家バンクの登録数が少ないので、広く伝えていく。 ⇒農業：農業をやってみたい人はどうやっていいのか分からないので、ノウハウを持った地域の人に教えてもらいながら取り組んでいく。
③問題に対する自分たちの感覚	●「自然環境」「子育て環境」「住まい」「農業」をはじめ、「働くところ」「特産品」など色々な取り組みについては、いろいろなつながりをもってやっていく必要がある。（下図参照） ●できることから、それぞれ得意な分野で取り組む。ただし、つながりを持つことも重要。
④問題に対してどんな行動ができるか	●気軽にいろいろな世代の人が集まれるコミュニティの場を作るのが重要。 ●近隣市町村との連携。また、近隣でうまくやっている所（川西の黒川地区、宝塚の西谷地区など）を学ぶことも大事。



⑤どんな新しい地域が現れるか	住んでみたいと思える地域
----------------	--------------



2. 「いながわの未来」のポイントと次回ワークに向けて

各班の「いながわの未来」は、それぞれのメンバーの背景・想いなどがつまった「言葉」として表現されました。

- コミュニケーションがとれる安全・安心なまち。最後は“人”
猪名川町はいろんなもの（人・地域・生活・環境など）が混在している「マーケット・タウン」
- 少子高齢者が住みやすい、高齢者が働きやすい町。高齢者が元気になる。
- 地域の中で横のつながりを強化し、観光での交流により、地域の底力を上げ、循環させる。
- 住んでみたいと思える地域

また、「いながわの未来」を整理していくにあたってのポイントは以下のように整理できます。

- まちの問題としては「少子高齢化」「人口減少」が共通して挙りました。
- そして、これからの「少子高齢化」「人口減少」に対して、猪名川町での暮らしへの「不安」「焦り」とともに、「あきらめ」「他人事」という感覚も見られました。一方で、「まだ間に合う」「本当は猪名川町のことが大好き」という感覚も、多くの参加者の共感を得ていました。
- さらに、どんな行動ができるかについては、「つながりの創出・強化」「交流」「農の活用」「居場所・場づくり」などが共通する視点として挙りました。また、行動に向けて「他の事例から学ぶ」という視点も挙りました。

次回の第5回まちづくりワークショップ（1月22日（火）開催）では、皆さんで言葉にした「いながわの未来（まちの将来像）」の実現に向けて、「④問題に対してどんな行動ができるか」のポイントなどを踏まえて、「やってみたいこと」「できること」「話し合ってみたいこと」を考え、整理していきます。

そこで、第5回に向けて、「いながわの未来」を実現するために「やってみたいこと」「できること」「話し合ってみたいこと」などを事前に想像・整理して頂けると、ワークショップをより楽しんでいただくことができるかと思います。

※「やってみたいこと」「できること」「話し合ってみたいこと」などについては、現段階で実現の可否は関係ありません。みなさんで話し合うことで、実現の可能性が出てくるかもしれません。基本的には、ご自身やご自身が所属されている団体・組織など地域での取り組みを想定しています。

※第5回以降は、「やってみたいこと」「できること」「話し合ってみたいこと」などの内容・キーワードから、いくつかのテーマを設定し、テーマ毎に班分けをする予定です。